

V 地域連携アクティブスクールの成果と課題（成果：下線、課題：網掛け）

地域連携アクティブスクールである泉高校と天羽高校のこれまでの取組状況及び各種アンケート調査や聞き取り調査等の結果を踏まえ、その成果と課題を整理しました。

1 学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）

学び直しについては、泉高校は「ベーシック」、天羽高校は「ステップアップ」をそれぞれ学校設定教科・科目として設けるとともに、少人数指導や習熟度別授業など、きめ細かい指導を実施しています。

生徒及び保護者を対象としたアンケート調査では、学び直しに対する期待は大きいことが伺えます。地域連携アクティブスクールを志願した理由として「学び直しがある」をあげた生徒・保護者が最も多く、また学校生活においても「学び直しの授業」に対する満足度は、生徒・保護者ともに非常に高くなっています。（資料 p17 p20, 21 参照）

さらに、中学校を対象としたアンケート調査においても、良いと思う特色として「学び直しができる学校」とする回答が最多となりました。

しかし、学校設定教科・科目による学び直しについては、授業方法についても手探りの状況にあることから、基礎学力を確実に定着させるため、3年間を見通した実施方法や教材について研究する必要があります。

2 実践的なキャリア教育

キャリア教育については、「産業社会と人間」（若しくは同様の学び）を導入し、系統的な指導を実施するとともに、外部人材を活用した講演会や体験的な学習、地域企業等の協力によるインターンシップなどを実施しています。

生徒及び保護者を対象としたアンケート調査では、充実した進路指導に対する肯定的な意見がある一方で、志願理由や満足度の数値については、必ずしも十分な結果とはなっていません。

中学校を対象としたアンケート調査においては、「地域と連携し、キャリア教育を行っていることで、生徒の心が育っているように思った」、「地域連携のインターンシップの一層の充実拡大に期待する」などの意見をいただきました。

今後は、現在実施しているキャリア教育の更なる充実を図るとともに、より効果的なキャリア教育の在り方や実施状況の広報などについて検討する必要があります。

3 地域との連携

地域連携には、「地域の教育力を学校へ提供してもらおう連携」と「学校の力（教育力）を地域へ提供（貢献）していく連携」があり、両校とも地域との連携による教育活動に積極的に取り組んでいます。

生徒及び保護者を対象としたアンケート調査では、「地域の方々と触れ合う機会があり、とても良かった」、「地域の方と交流する機会が増え、コミュニケーション能力を高めることができた」、「これまで以上に地域の方々と触れ合う機会を設けていただきたい」などの意見がありました。

中学校を対象としたアンケート調査においては、「地域の学校として多方面と連携して様々な取組をしているので、魅力的だと思う」などの意見をいただきました。

今後、現在の地域連携の取組について内容の吟味を図り、「地域の教育力の活用」と「地域への貢献」を踏まえた教育活動の在り方について引き続き検討する必要があります。

4 独自の入学者選抜

地域連携アクティブスクールでは、「中学校で十分力を発揮しきれなかったけれど、高校で心機一転がんばりたい気持ちを持った生徒を自立した社会人として育てる」という趣旨を踏まえ、人間性や学ぶ意欲を重視する独自の入学者選抜を実施しています。

中学校を対象としたアンケート調査においては、入学者選抜について「現状のままでよい」とする回答が8割を超える結果となりました。

当面は、現状の入学者選抜を維持しつつ、生徒の状況等を見守りながら、地域連携アクティブスクール設置の趣旨を的確に踏まえた入学者選抜の在り方について、引き続き検討する必要があります。

5 支援体制

(1) キャリア教育支援コーディネーター

実践的なキャリア教育の実施に向けて、学校以外の分野で培った経験や人脈をいかして学校と関係機関との連絡調整を図るため、民間企業や行政等の経験者をキャリア教育支援コーディネーターとして配置しています。

キャリア教育支援コーディネーターの配置により、インターンシップ拡充のための企業開拓やインターンシップ実施の際の事前・事後指導、地域との連携による教育活動の展開などが進められ、実践的なキャリア教育の展開が可能となっています。

地域の教育力を活用した実践的なキャリア教育を推進するためには、民間企業や行政などで活躍し、幅広い経験や知見を有する人材は不可欠であり、コーディネーターの継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。

(2) スクールソーシャルワーカー

様々な困難を抱える生徒に対して、生徒本人と向き合うだけでなく、家庭や行政、福祉関係施設など外部関係機関等と連携しながら、生徒を取り巻く環境に働きかけるなど、より多面的に支援を行うため、スクールソーシャルワーカーを配置しています。

スクールソーシャルワーカーの配置により、子どもと親のサポートセンターや市役所、児童相談所、発達障害者支援センター等の関係機関との連携が深まり、生徒の抱える課題に対して、より適切な対応が可能となっています。

困難を抱える生徒に対して、スクールソーシャルワーカーの配置が効果的であることは既に実証済みであり、継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。

(3) 学習サポートボランティア

近隣の大学との連携により、将来教職を目指す学生を学習サポートボランティアとして派遣していただき、学び直しの授業や通常授業での生徒個々への支援を依頼するなど、生徒へのきめ細かい指導を実施しています。

学習サポートボランティアからの意見聴取では、貴重な経験となっているという肯定的な意見がある一方で、授業での補助に当たって授業担当者との緊密な連携体制の構築が必要であるなど、改善を求める意見もありました。

この制度は、生徒へのきめ細かい指導を可能にするとともに、ボランティアとして参加している学生にとっても学校現場を知る貴重な経験となることから、継続して実施していく必要がありますが、ボランティアからの意見聴取を踏まえ、実施方法の改善が課題となっています。

VI 地域連携アクティブスクールの今後の展開

1 魅力ある学校づくりに向けた改善点等

地域連携アクティブスクールは、「中学校で十分力を発揮しきれなかったけれど、高校で心機一転がんばりたい気持ち」を受け止め、自立した社会人を育てる新たなタイプの学校であり、設置に向けた研究を踏まえ、理念実現に向けて様々なシステムを導入しました。

そして、今回、両校の取組状況やアンケート調査、聞き取り調査等の実施により、両校のこれまでの取組について一定の成果が確認されましたが、より県民のニーズに応え、魅力ある学校となるためには、システム・取組の更なる改善が必要だと考えられます。

このため、地域連携アクティブスクールの今後の指針として、「4つの柱」、「目標」及び、「目標達成に向けた具体的なシステム等」を以下のとおり整理しました。

4つの柱	目 標	目標達成に向けた具体的なシステム等
学ぶ意欲に応える 学習指導 〔 学び直し 〕	・ 基礎学力の定着を図り、生徒の満足度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「全学年で2単位（20分×5日/週）実施」や「1学年で3単位（50分×3日/週）実施」など、学び直しの明確な位置付け ・ 少人数授業の実施 ・ 教員の指導力向上に向けた研修会の実施
実践的なキャリア教育	・ コミュニケーション能力や倫理観を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「産業社会と人間」の導入による系統的なキャリア教育の実施 ・ 生徒全員を対象としたインターンシップの実施 ・ ソーシャルスキルトレーニングの計画的な実施
地域との連携	・ 地域とともに歩む学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学との連携による学習ボランティアの積極的な活用（大学生への丁寧な事前指導の実施など、より効果的な活用方法について検討） ・ 異校種との積極的な交流 ・ 地域の教育力を活用した体験学習の実施（農業体験 等） ・ 推進協議会の開催（横のつながりの構築）
独自の入学者選抜	・ 人間性や学ぶ意欲を重視する。	<ul style="list-style-type: none"> 《一期選抜》 学力検査（国英数）、作文、面接 《二期選抜》 学校独自問題（口頭試問も可）、面接

なお、困難を抱える生徒を支援するため、4つの柱とともに、スクールソーシャルワーカーが効果的に機能する教育相談体制の構築など、校内体制の更なる充実を図る必要があります。

今後は、本県の新たなタイプの学校としてスタートした地域連携アクティブスクールが、より魅力ある学校となるよう、継続的なシステム運用に向け支援に努めるとともに広く県民に周知を図るため、引き続き広報に取り組んでまいります。

2 今後の新たな設置について

県立学校改革推進プランでは、地域連携アクティブスクールを「4校程度設置」することとしました。既設校の泉高校及び天羽高校に続き、平成27年度、船橋古和釜高校と流山北高校に設置し、併せて設置校は4校となりました。

今後の新たな設置については、今回取りまとめた評価や地域バランス、県民ニーズ等を踏まえながら、引き続き検討してまいります。